

【文京区】 校務DX計画

1. 本区の現状

現状、本区では教職員系ネットワークと学習系ネットワークが分離されている分離ネットワークを採用している。そのため、教職員は教職員系ネットワーク用端末と学習系ネットワーク用端末の2台所持となっている。また、両ネットワークともにデータセンターを経由する形式のため、ロケーションフリーは実現できていない。

したがって、以下2～3のとおりネットワーク環境の変更やデジタル化を推進することにより、校務DXに対応する予定である。

2. 教職員系ネットワーク用端末と学習系ネットワーク用端末の1台化

学習系ネットワーク用端末について、データセンター経由で行っていた認証を令和7年度よりクラウドベースとする。

また、令和8年度から令和9年度にかけて、教職員系ネットワーク及び学習系ネットワークの端末1台化を見据えた端末選定をする。併せて、教職員系ネットワークのクラウド化を行い、学習系ネットワークと統合することによりフルクラウド、ゼロトラスト環境の実現に向けて検討を進め、令和10年度以降、教職員が場所を選ばずに仕事が可能なロケーションフリーを実現する。

3. 校務デジタル化の推進

令和5年度より、保護者連絡ツールを導入しており、欠席連絡のデジタル化やお便りのペーパーレス化を推進しているほか、令和7年度からFAX及び押印の制度・慣行の見直しを行い、一部を除き原則廃止とする。

また、平成29年度の校務支援システム導入より、児童生徒の名簿情報の一括登録を実施しており、引き続き教職員の負担軽減を行うとともに、令和9年度の校務支援システム更改では、東京都の共同調達の動向を注視しつつ、令和10年度以降のロケーションフリー実現を見据えたクラウド型システムの導入を検討する。